

令和4年度 学校評価(6月)成果と課題

保:保護者アンケート(網掛けは市内共通項目)、児:児童アンケート

学校教育目標	主体性を育てる ～自主・自律・共生					
めざす子ども像	「させられないで、する子ども」 ◎自分の願いや目標を持ち、自分で考え、判断、行動し、多様な人々と協働しながら、自らの可能性を發揮していく児童の育成					
確かな学力	重点	■主体的な学び:「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図る。				
	アクション	①生徒指導の機能を生かした授業づくり ②ICT(タブレット)活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ③家庭学習(自学)の工夫				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>根拠となる指標</th> <th>データ分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年生)</li> <li>・学力テスト(2～5年生)</li> <li>・保1 授業がわかりやすい</li> <li>・保2 興味を持って学習</li> <li>・保3 家庭学習の習慣</li> <li>・保4 進んで書く、話し合う</li> <li>・保5 ICTの効果的活用</li> <li>・児1 学校の授業はわかりやすい</li> <li>・児2 進んで書く、話し合う</li> <li>・児3 進んで家庭学習</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年)では、国語、算数、理科の全観点・領域において、全国平均を5～15P 上回っている。また、標準学力テスト(2～5年)でも概ね全国平均を上回っている。</li> <li>・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は85%で市平均とほぼ同水準である。「興味を持って学習」は68%で、市平均を4P 上回っている。「家庭学習の習慣」の肯定的評価は、昨年度12月より3P 上昇しており、市平均よりも3P 高い。</li> <li>・児「学校の授業はわかりやすい」の肯定的評価が92%、「自分の考えを進んでノートに書いたり、話し合いに参加したりしている」の肯定的評価が85%と、どちらも高い水準を示している。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		根拠となる指標	データ分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年生)</li> <li>・学力テスト(2～5年生)</li> <li>・保1 授業がわかりやすい</li> <li>・保2 興味を持って学習</li> <li>・保3 家庭学習の習慣</li> <li>・保4 進んで書く、話し合う</li> <li>・保5 ICTの効果的活用</li> <li>・児1 学校の授業はわかりやすい</li> <li>・児2 進んで書く、話し合う</li> <li>・児3 進んで家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年)では、国語、算数、理科の全観点・領域において、全国平均を5～15P 上回っている。また、標準学力テスト(2～5年)でも概ね全国平均を上回っている。</li> <li>・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は85%で市平均とほぼ同水準である。「興味を持って学習」は68%で、市平均を4P 上回っている。「家庭学習の習慣」の肯定的評価は、昨年度12月より3P 上昇しており、市平均よりも3P 高い。</li> <li>・児「学校の授業はわかりやすい」の肯定的評価が92%、「自分の考えを進んでノートに書いたり、話し合いに参加したりしている」の肯定的評価が85%と、どちらも高い水準を示している。</li> </ul>
	根拠となる指標	データ分析				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年生)</li> <li>・学力テスト(2～5年生)</li> <li>・保1 授業がわかりやすい</li> <li>・保2 興味を持って学習</li> <li>・保3 家庭学習の習慣</li> <li>・保4 進んで書く、話し合う</li> <li>・保5 ICTの効果的活用</li> <li>・児1 学校の授業はわかりやすい</li> <li>・児2 進んで書く、話し合う</li> <li>・児3 進んで家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査(6年)では、国語、算数、理科の全観点・領域において、全国平均を5～15P 上回っている。また、標準学力テスト(2～5年)でも概ね全国平均を上回っている。</li> <li>・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は85%で市平均とほぼ同水準である。「興味を持って学習」は68%で、市平均を4P 上回っている。「家庭学習の習慣」の肯定的評価は、昨年度12月より3P 上昇しており、市平均よりも3P 高い。</li> <li>・児「学校の授業はわかりやすい」の肯定的評価が92%、「自分の考えを進んでノートに書いたり、話し合いに参加したりしている」の肯定的評価が85%と、どちらも高い水準を示している。</li> </ul>				
	成果(○)と課題(●)					
<p>○どの学年も知識・技能をはじめ、基礎的学力はほぼ身に付いている。</p> <p>○児では、「授業が分かりやすい」、「自分で進んで」の肯定的割合が高い水準にあり、概ね、質の高い授業ができています。「生徒指導の機能」や「主体的・対話的で深い学び」に関するセルフチェックシートの活用を図り、授業づくりの自己評価、改善に生かすことができました。</p> <p>○中・高学年においては、各教科で、調べ学習や表現活動などで一人一台端末(タブレット)の効果的活用が進み、ICT を活用した個別最適な学びがより推進できた。低学年においても、計算ソフトを活用し、自分で問題を解き、答え合わせをし、間違った問題には再度挑戦するなど、自分のペースで学習を進めることができました。</p> <p>○家庭学習については、発達段階に応じた取組を工夫・充実できた。</p> <p>●主体的な学びに関しては、今後も校内研究において生活科や総合的な学習の時間を中核に、学習プロセスや支援の工夫を図ることで、さらに充実していく。</p> <p>●タブレットを活用した協働的な学びについては、今後も相互参観や校内研修を重ねながら、より効果的な活用を図っていく必要がある。</p>						

豊かな心	重点	■認め合う仲間:自己肯定感を持ち、多様性を認め合う児童を育成する。	
	アクション	④学級経営の充実(多様性の尊重、自己肯定感の育成) ⑤道徳科を要とした道徳教育の充実 ⑥豊かな体験活動	
		根拠となる指標	データ分析
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保6 自分からあいさつ</li> <li>・保7 自分の役割に責任</li> <li>・保8 だれとでも優しく関わる</li> <li>・保9 子どものことで相談</li> <li>・保10 いじめや暴力のない取組</li> <li>・保11 「あったかはあと」の育成</li> <li>・児4 学校は楽しい</li> <li>・児5 自分にはよいところがある</li> <li>・児6 誰に対しても優しい</li> <li>・児7 自分から進んで挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保では、「責任を持って取り組んでいる」「誰とでも優しく関わっている」の肯定的評価は、高水準である。独自項目の「子どものことで相談に応じてくれる」、「いじめや暴力のない学校生活を送れるように取り組んでいる」、「『あったかはあと』な児童の育成に努めている」については、肯定的評価が90%前後と高い水準にある。</li> <li>・保では、3つの独自項目について無回答(わからない)の割合が多い(11~17%)</li> <li>・児では、「学校は楽しい」の肯定的評価が93%である。自己肯定感については、83%が「自分には良いところがあると回答している。「進んであいさつ」の肯定的評価は81%であるが、保では、「進んであいさつ」の肯定的評価は74%である。児童の自己評価ほどは、実際にはできていない実態が伺える。</li> </ul>
		成果(○)と課題(●)	
	<p>○多様性を尊重し自己肯定感を育成する学級経営の充実により、学校生活満足度や自己肯定感は、概ね高水準にあるが、そうでない児童への支援も適切に講じていく。</p> <p>○道徳授業については、学級経営を基盤に、ローテーション授業を実施したり、授業参観等で積極的に授業公開したりするなど、指導体制や教材研究の充実により、指導の充実・強化が図れた。</p> <p>○人権教室(3年生)や学校支援実践講座(5年生)において、いじめ防止や多様性の尊重に関わる指導を計画的に実施できた。【2年生人権教室を後期に予定】</p> <p>○コロナ禍においても、感染防止対策を講じながら、生活科や総合学習、社会科学習等において、様々な体験活動を実施し、地域の人々との交流ができた。</p> <p>&lt;各学年の体験活動&gt; 【 】は、7月~9月末に実施したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生 公園探検、【虫とり、シャボン玉あそび】</li> <li>・2年生 野菜づくり(一人一鉢)、畑の先生</li> <li>・3年生 干潟探検、【コンビニ見学、市内見学、人権教室】</li> <li>・4年生 妙典の町探検</li> <li>・5年生 エコクッキング、【学校支援実践講座】</li> <li>・6年生 縄文体験(石器使用、火起こし)【防災倉庫見学、地域防災課講話】</li> </ul> <p>○異学年交流遊び(9月)を実施し、異年齢の交流を図ることができた。</p> <p>●挨拶は個人差が大きいと思われる。意識を高め、「自ら進んで」実践できるようにする必要がある。</p> <p>●学校独自3項目「相談」「いじめ・暴力」「あったかはあと」については、例年と変わらず、依然として無回答(=わからない)の割合が11~17%と多く、学校の取組が十分に伝わっていない状況が改善されていない。授業参観だけでなく学校だよりやHPで積極的に情報発信していく必要がある。</p>		

重点	■健康・安全のセルフマネジメント:健康安全に関するセルフマネジメント力を育成する。	
アクション	⑦自ら運動に親しむ資質・能力の育成と体力向上 ⑧健康安全教育の充実	
	根拠となる指標	データ分析
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テスト(1～6年生)</li> <li>・保健室利用状況</li> <li>・<b>保12</b> 進んで体を動かす</li> <li>・<b>保13</b> 安全に気を付けて生活</li> <li>・<b>保14</b> 規則的な生活習慣</li> <li>・<b>児8</b> 進んで体を動かす</li> <li>・<b>児9</b> 早寝・早起き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果は、全学年ほぼ全ての項目について全国平均を下回っており、その状況が数年続いている。特に、走・跳の運動において、全国平均を5～10P 下回っている。</li> <li>・<b>保</b>では、「自ら交通安全に気を付けて」「規則正しい生活習慣」の肯定的評価は、前年度と比較してほぼ同水準である。「進んで体を動かしている」については、市平均と比較し4P 下回っている。</li> <li>・<b>児</b>では、「進んで体を動かす」の肯定的評価が71%と低く、<b>保</b>結果と合わせても、日頃、運動に親しんでいない児童の実態が伺える。「早寝、早起き」などの生活習慣については、69%と低いが、<b>保</b>では、86%であり、児童と保護者の認識に乖離が見られる。</li> <li>・保健室利用状況(前期4～9月末)を見ると、外科の来室者数が前年度よりも激減している。 内科 227人(+9人)、外科(-193人)</li> </ul>
成果(○)と課題(●)		
健やかな体	<p>○体育科では、校内研修を行い、運動の特性に触れながら楽しい体育授業を実施し、児童が達成感を持てるような支援の工夫ができた。</p> <p>●体力向上に課題がある。業間、昼休みには、外遊びする児童の姿も多いが、アンケートでは、保護者、児童ともに、外遊びなど進んで体を動かすについて肯定的評価が低い。放課後の遊び方や休日の過ごし方も含めて、運動に対する意識(運動が好き、運動することは楽しい、運動をしたい等)を高めていく必要がある。</p> <p>(10月～11月に、業間時間に「体力向上大作戦」を実施予定)</p> <p>●基本的な生活習慣(早寝・早起き、朝ごはん)については、児童が自らの生活態度を改善できるような手立てを講じていく必要がある。</p> <p>(生活習慣の確立、給食を活用した食育の推進など)</p>	

信頼される学校づくり	重点	■寄り添う支援:子どもや保護者の思いに寄り添いながら、保護者・地域との連携を図る。	
	アクション	⑨子ども支援体制の充実・強化(子ども支援部会、ケース会議、児童アンケートなど) ⑩保護者・地域と連携した教育活動の展開(生活科、総合的な学習の時間、学校行事など) ⑪適時適切な情報発信と学校公開(各種お便り、HP、授業参観、懇談会など) ⑫学校運営協議会での教育ビジョンの共有、学校評価による学校経営改善の推進	
		根拠となる指標	データ分析
		・保15 学校経営方針の周知・啓発 ・保16 保護者・地域との連携 ・保17 保護者の思いや願いに対応 ・保18 特色ある取組 ・保19 一人一人に適切な指導支援 ・保20 安全な生活指導	・保では、「学校経営方針の周知」に関する肯定的評価が88%と高く、市平均を2P 上回っている。また、「一人一人に適切な指導や支援」についても市平均を2P 上回っている。「特色ある取組」については、市平均を5以上上回っている。しかし「保護者の思いや願い」については、市平均より3P 下回っている。 ・全6項目(共通5項目、独自項目1項目)については、例年と変わらず依然として無回答(=わからない)の割合が10~15%と大変多い。学校の取り組みが保護者に十分に伝わっていない状況が、例年改善されていない。
		成果 (○) と課題 (●)	
	○ケース会議を計画的に開催し、該当児童・家庭に係る情報共有と学校体制を整備しながら、児童や家庭への支援の充実を図った。 ○前期、学校運営協議会(2回)を開催し、学校経営方針の承認をいただくとともに授業参観を実施した。情報共有や経営課題について検討・協議ができた。 ○コロナ禍の中、感染対策を適切に講じながら、総合的な学習の時間、生活科、学校行事などにおいて、少しずつ保護者、地域との交流活動を実施できてきている。今後、感染状況を見定めながら、さらに交流の機会を増やしていく。 ●市平均と比較して、「保護者の思いや願いに対して適切に対応」が、低い水準にあるため、取り組みをさらに充実させていく必要がある。 ●保護者アンケートの全6項目について、例年同様、無回答(=わからない)の割合が10~15%前後あり、大変多い。学校の取り組みが十分に保護者に伝わっていない状況が伺える。HP の充実、学校だより等の内容改善など、情報提供の内容と方法を改善していく必要がある。		